

# 全東京写真連盟 撮影会写真コンクール

## 入賞作品集



審査対象 臨海副都心モデル撮影会

撮影日 2022年03月20日

審査日 2022年05月05日

審査員: HARUKI先生



金賞  
「Dreamed a Dream」  
門間 正之 様  
モデル 山下 明穂

### 審査員：HARUKI先生 講評

美しい横顔ですね。モデルさんに対してのカメラアングルの角度やフレーミングが完璧です。もの思いに耽っているかのような感情と感情の中を揺れ動いている様子に見て取れる微妙な表情と指の持って行き方までもが素晴らしいです。望遠レンズを使うとついつい解放値あたりの絞りをチョイスしがちですがF5.6の選択によって背景もシチュエーションが見えてきてドラマ性を感じられる写真です。撮影会でのモデルさんの撮影というよりは若い女性の “リアルな今を切り撮った一コマ” となりました。



銀賞  
「白の妖精」  
鵜飼 典彦 様  
モデル BUN

審査員：HARUKI先生 講評

金賞受賞作とおそらく同じ場所かと思いますがモデルさんが変わっただけではなくて全く別の世界観ですね。コチラの写真の魅力はなんといっても全てをシンプルにしている結果の産物でしょう。画面構成はセンターで真っ直ぐなカメラ目線、使われている配色は白とグリーンのほぼ2色だけ。もしも手にした一輪の花が派手な色味だったらこの世界観とは大きく違っていたことでしょう。良い意味で妙な小手先のテクニックを使わないストレートな攻め口が気持ち良い堂々としている作品となりました。



銅賞  
「楽しすぎて」  
石川 玲 様  
モデル 山下 明穂

### 審査員：HARUKI先生 講評

楽しそうで良いですね～！！ロングヘアを揺らしながら飛び跳ねるモデルさんの潑刺とした明るい表情が長く続いているコロナ禍の憂鬱を吹き飛ばしてくれるようです。

上位2点を「静」の中の魅力を捉えているのだとしたら、こちらは対極的に「動」の楽しさや明るさを体現しています。手足のぎこちなさからすると照れが感じられますが、それでも彼女の屈託のない笑顔には癒されます。おそらくカメラを構えたら自然となったのだらうと思いますが、斜めのフレーミングも画面の動きを表現するには効果的でした。



入選  
「Spinner」  
堤 博史 様  
モデル 杉浦檸檬



入選  
「並木の広場」  
湯原 章綱 様  
モデル 佐野なぎさ



入選  
「赤と黒」  
荒井 秀雄 様  
モデル BUN



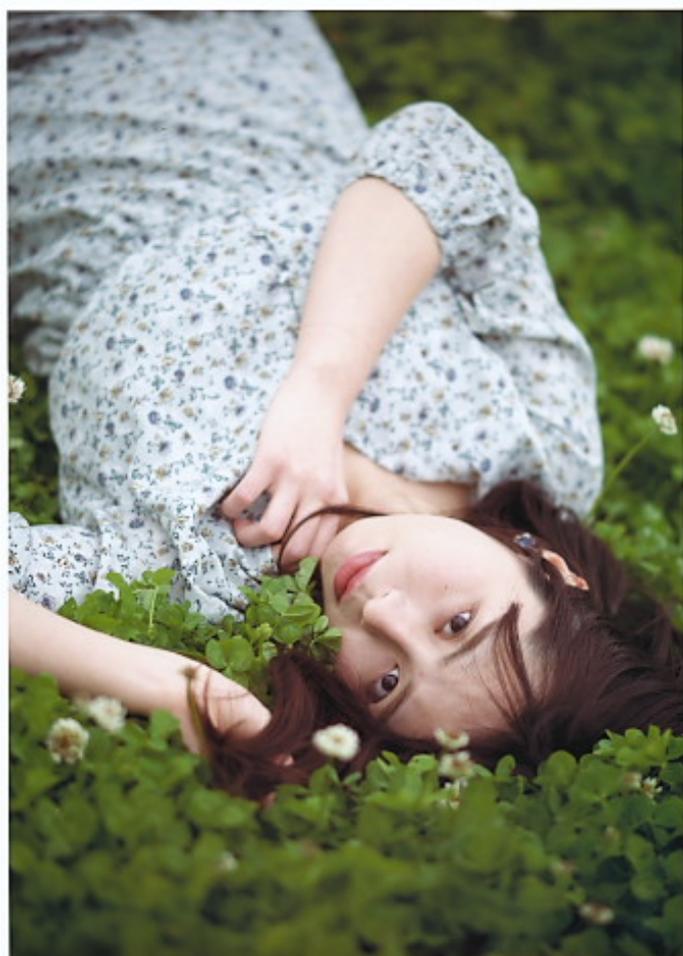
入選  
「緑遙か」  
米沢 健二 様  
モデル 桜美 さやか



入選  
「ゴールドの壁」  
松岡 達雄 様  
モデル 杉浦檸檬



佳作  
「かがやく時」  
菅原 道久 様  
モデル 杉浦檸檬



佳作  
「葉のベット」  
中山 昌幸 様  
モデル 美菜



佳作  
「見つめる眼差し」  
中山 静男 様  
モデル 杉浦檸檬



佳作  
「花一輪」  
小幡 大輔 様  
モデル BUN



佳作  
「赤のオブジェと」  
新井 潔 様  
モデル 桜美 さやか



佳作  
「情熱」  
高橋 壯太 様  
モデル BUN



佳作  
「春の訪れ」  
内藤 勝之 様  
モデル 山下 明穂



佳作  
「春風を感じて」  
小野寺 基之 様  
モデル 桜美 さやか



佳作  
「ときめき」  
金澤 義夫 様  
モデル BUN



佳作  
「北欧の春」  
北条 善久 様  
モデル アビラ凜



次点  
「透過光を受けて」  
白鳥 政雄 様  
モデル 杉浦檸檬



次点  
「君の笑顔がスキ」  
高橋 敏之 様  
モデル アビラ凜



次点  
「なごり雪」  
芝本 勲 様  
モデル 山下 明穂



次点  
「アートな光景」  
山田 栄一 様  
モデル 長谷部 彩



次点  
「微笑んで」  
横塚 英夫 様  
モデル 桜美 さやか



次点  
「かこまれる」  
斎藤 貴生 様  
モデル 長谷部 彩



次点  
「春への誘い」  
猿田 善和 様  
モデル BUN



次点  
「カラフル」  
岸野 孝博 様  
モデル 堀口桜子



次点  
「春に想う」  
高橋 伸幸 様  
モデル 山下 明穂



次点  
「きっかけ」  
星野 祐一 様  
モデル 山下 明穂

## 【ちょっとした努力で人との差が出るかも】

皆さん、こんにちは。

今回の審査は新人モデル撮影会と臨海副都心撮影会でした。新人モデルさん撮影会、今年も素敵な新人モデルさんが多く、臨海副都心撮影会もなかなかの力作揃いでこちらもセレクトの段階では苦しい選択でした。いつものことでもあるのですが、まずは全応募作品からプリントの良し悪しで絞ります。そして徐々に作品の内容へと絞られていくのですが最後の10数点まで残った作品はどれも素晴らしくて点数にしたらほぼ同列なのです。それじゃあ何故、金・銀・銅・入選と違いが出るのか？となりますよね。そこは個性です。皆さん同じ条件で撮影されていても、ほんのちょっとしたアングル（上下左右）の差、使用レンズなど焦点距離やフレーミング（切り取り）の差、そしてシャッターチャンスのタイミング（瞬間）などによって同じ場所同じモデル同じ光線でも全てが違ってきます。最終的には同じ条件でも人とは違った視点から個性を発揮できるかどうか大切な要素となります。次回撮影会ではカメラ位置を数センチ変えただけでも違いが出ることを意識して撮影に臨んでください☆

HARUKI